

---

# 青い目。

モンキィ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

青い目。

### 【コード】

N3252C

### 【作者名】

モンキィ

### 【あらすじ】

青い目は、私から何もかも吸い取った。多くの不安に押し殺されそうになってる少女。その子がであった不思議な青い目の少年。

初めてあったあの時から。

初めて見たあの時から。

初めて話した話したあの時から。

私はアナタのとりこでした。

「ねえ、そんな仕事、止めれば。」

40代前後のおじさんと腕を組んでホテルに向かう途中、その声をかけられた。

みおぼえのない声に振り向くと、そこには青い目が合った。

その目は私を捕らえてて、

私は動くことすら許されなかった。

「おじさん、あんた、会社でしょ？この写真、おくちやっても

いいの？」

そういつて、その青い目はおじさんに携帯を突き出した。

「ひっ！」

それを見た瞬間、おじさんは私の腕を振り払って、夜の闇へ消えてしまった。

あゝあ、7万円が……。

青い目は一つため息を吐いて、こっちを向く。

「で、もう止めるよ。そんなこと。」

また青い目は私を捕らえる。

「そんなことして何が嬉しいの？」

嬉しい？そんなはずない。

「お金が必要なの？」

もらったお金はほとんど使ってない。

「なんなのさ。なんか言えよ。」

青い目は、そう告げる。

「なに？関係ないじゃん。私が何しよう。どんなに扱われよう！  
！どんなに汚れても！」

青い目は、何もかも吸い込んで。

私の必死に叫んだ言葉も、目の中に消えた。

言葉が消えた代わりに、私の目から水が出てきた。

生暖かい。

もう、消えたと思ってた水が。

「そういつてる割には・・・泣いてるじゃん。てか、関係なくない  
し。」

青い目はなお、私を追い続ける。

青い目は私に近寄ってきて、そつと頬に手を添えた。

青い目は青いくせに、暖かかった。

「俺、あんなのそんな姿見たくないし。」

「いつつも、あんなつておじさんと手を組んで、泣きそうな顔して  
る。」

青い目はすぐ近くに合って、そこから全てを探り出そうとする。

ドク ドク

その目に誘い出されたかのように、私の心臓は大きな音を立て始めた。

「なんでそんな顔してまで、そんなことすんの？」

青い目はさらに近づく。

そこで、私は全てを吸い込まれた。

「・・・壊れそうだから。誰かが近くにいないと壊れそうだから。誰かが私を必要としてないと消えてしまいそうだから。たとえば、一時だけでも。バラバラになってしまいそうだから。怖かったの・・・怖かったの。・・・何もかも・・・。」

その目を見つめたまま、私はしゃがみこんだ。  
手も足も、体全体から力が抜けた。

青い目は、上から私を見続ける。

「私は汚いつて分かった。あんなことで満たされるわけないって分かった。でも、他に何すればいいのかわからなかった。これす

る以外に何も出来なかった。一人消えていくのが怖かった。」

私はその青い目に全てをはき続けた。

いつも間にか青い目は私と同じ高さにあった。

「俺がいるじゃん。」

その一言が、全てを貫いた。

誰か分からない。

名前も知らない。

年も分からない。

日本人なのかも分からない。

そんな青い目に私は抱きついて泣いた。

青い目は私から汚いもの全てを、吸い取ってくれるようだった。

「俺、その家で、ずっとあんたを見てきた。」

青い目は、すっと一つのマンションの一階を指した。

「いつも、違うおじさんと腕を組んでホテルの方へ向かってるあんたを見てた。」

「いつもいつも、寂しそうで、泣きそうなあんたを見てた。」

「そのうち、悲しくなってきた。」

青い目は、私を抱きしめた。

「おれ、あんたのこと好きだったみたい。」

私は、また青い目のぬくもりの中で泣いた。

(後書き)

訳分からなくて、すみません・・・。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3252c/>

---

青い目。

2010年11月20日03時50分発行